

こどもたちに風を 光を 花を



こども 検診医療基金・関西

設立のつどい

震災・原発事故により、京都府内には福島県など公的受け入れの避難者が1000名、関東からも自主避難移住者が多数存在します。チェルノブイリ事故の汚染基準にあてはまれば、福島のみならず、南東北から関東首都圏に至るまで、放射線管理区域と移住権利区域が多くあります。西日本への避難者のほとんどが、小さな子どもの健康を懸念した母子避難です。原発事故から2年。チェルノブイリの子どもたちを診てきたヘレン・カルデコット医学博士によれば、子どもたちは半年に一度の検診が必要です。二重生活の避難移住者には、自費検診の費用や受け入れ病院の問題があり、未だに検診を受けていない子どもたちがほとんどです。子どもたちのいのちと未来を守りたいという願いで、「こども検診医療基金・関西」を設立いたします。今を生きるこども、未来の子どもたちが健やかにともに生きあえる社会を願って、みなさまとこの小さな基金を設立し、ともに育ててまいりたいと願っています。

2013年**3月24日**(日) 開場=午後1時 開会=午後1時30分 協力金=1,000円

※当日は託児室を開設します。ご希望の方は事前に下記問い合わせ先へご連絡ください。

会場=ひと・まち交流館 京都

〒600-8127 京都市下京区西木屋町通上ノ口上る梅湊町 83-1 (河原町通五条下る東側) TEL: 075-354-8711

【バス】市バス 4, 17, 205 号系統「河原町正面」下車【電車】京阪電車「清水五条」下車徒歩 8 分/地下鉄烏丸線「五条」下車徒歩 10 分

記念講演

「原発事故後、こどもたちの健康に何が起きているか」



おしどりマコ・ケン



梶原 敬一

●おしどりマコ・ケン/よしもとクリエイティブ・エージェンシー東京(東京吉本)に所属。東京電力福島第一原子力発電所事故後、東京電力や政府・東京電力統合対策室合同記者会見に出席し、するどい質問で多くの情報開示をさせてきた。現地取材も積極的に行って質問し、その模様をウェブマガジンで公開している。昨年3月には、子どもたちの甲状腺被害について記事を書き、警鐘を鳴らしている。

●梶原 敬一/姫路医療センター小児科医者、真宗大谷派(東本願寺)僧侶

こども 検診医療基金・関西

- 顧問: 梶原敬一(姫路医療センター医師)、村田三郎(阪南中央病院医師)、山内知也(神戸大学大学院教授)
- 呼びかけ人(2013.2.11現在): 俵万智(歌人)、新川和江(詩人)、森崎和江(詩人)、石川逸子(詩人)、亀山のもの(フォトグラファー)
- 賛同人(2013.2.25現在): 落合恵子(作家)、加藤登紀子(歌手)、谷川賢作(ミュージシャン)、としくらえみ(シュタイナー教育作家・水彩画家)、早乙女愛(映像製作)、早乙女勝彦(作家)、石田紀郎(市民環境研究所)、守田敏也(フリーライター)、若松丈太郎(核災棄民)、佐相憲一(詩人)、木島章(詩人)、李政美(歌手)、山田真(医者)、制服向上委員会、おしどりマコ(吉本興業)
- 事務局代表: 「こども検診医療基金・関西」代表 山内小夜子、「内部被曝から子どもを守る会 関西疎開移住(希望)者ネットワーク」代表 中村 純

※「こども検診医療基金・関西」へ寄付のお願い 原発事故で避難移住している子どもたちの検診と医療を支える基金にご賛同ください。

ゆうちょ銀行: 振替口座 00970 2 302138 / 他行から 099 当座 0302138 / 口座名 子ども検診医療基金・関西

【主催】こども検診医療基金・関西 【共催】内部被曝から子どもを守る会 関西疎開移住(希望)者ネットワーク 【後援】生活クラブ京都エル・コープ

お問い合わせ: 070-5043-3289 kodokenshin@hotmail.co.jp